

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



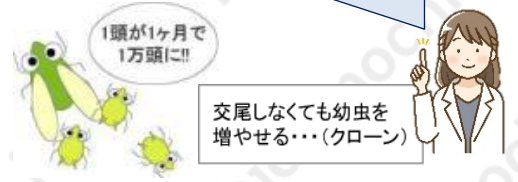
アブラムシ類は早めの対策が重要です!

アブラムシ類



ワタアブラムシは葉・葉柄・花房・新芽に、イチゴケナガアブラムシは未展開葉などに寄生する。イチゴネアブラムシは茎・根の上部に寄生、共生するトビロケアリが株際の土を盛り上げることで、葉や果実が汚れる。どの種も同様に排泄物(甘露)が葉に付着してすす病を併発し、品質低下や生育不良になる。アブラムシ類は同じ種類の中でも、有翅虫と無翅虫が出現する。寒い地方では卵で越冬するが、暖地では冬でも単為生殖を続け、周年で発生を繰り返す。特に4~6月に発生増加が見られる。約10種類のウイルスを媒介し、親株が感染している場合は、苗もウイルスに汚染されているので注意。

アブラムシは単為生殖(クローン)が基本なので、1頭でも短期間で多量に増殖してしまいます。ウイルス病は感染してしまうと治療はできません。早めにアブラムシ類防除をすることが重要です!



! 防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません! ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください! **!**

IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	希釈倍数	使用時期	回数	影響日数			
								ミツバチ	マルハナ	ミヤコ	チリ
U13,9	うどんこ病・灰色かび病	ショウチノスケフロアブル	○	○	2000倍	前日	2回	0日			0日
29	アブラムシ類・コナジラミ類	ウララDF	-	-	2000~4000倍 (コナジラミ類:2000倍)	前日	2回	0日			0日
U06,3	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤	○	○	2000倍	前日	2回	0日			0日
4C	アブラムシ類・コナジラミ類	トランスフォームフロアブル	-	-	1000~2000倍 (アブラムシ類:2000倍)	前日	3回	10日	2~5日		0日
11	うどんこ病・菌核病	スクレアフロアブル	○	-	2000倍	前日	3回	1日			-
30	アザミウマ類・ハダニ類 ・オオハシコガ・ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	-	-	2000倍	前日	2回	1日		100日↑	-
M07, 53	うどんこ病	フセキワイドフロアブル	○	○	1000倍	前日	4回	0日			0日
NC	うどんこ病・アブラムシ類・ハダニ類 ・コナジラミ類・チャノコリガミ	サフオイル乳剤	-	-	300~500倍 (うどんこ病・チャノコリガミ: 300倍)	前日	-	1日			1日

作物によって対象病害虫や希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

コガネムシ類幼虫防除に!!

ダイアジノンSLゾル

残効性に優れ長期間の防除
マイクロカプセル独特の食毒効果!

コガネムシ類幼虫 ミツバチ45日
定植前(本圃)/25倍/全面土壌混和
植付時(仮植床)/50倍/全面土壌混和
ポット育苗時/500倍/育苗ポット灌注



酷暑に打ち克つ

ヒートインパクト



暑さに負けない“強さ”を引き出す

- ◆ 光合成機能の低下による収量減対策
- ◆ 果菜類の糖度・肥大不足に!

果菜類・葉菜類使用例
1000倍 100ml/10a
本葉展開後~収穫前 2~3回 葉面散布